

育児や家事に家庭生活を楽しみながら男性も参加！

～ 豊島区イクメン・カジダン写真展表彰式 ～

本日、豊島区役所において「豊島区イクメン・カジダン写真展」の表彰式が行われ、最優秀賞等の受賞者へ豊島区長から賞状と記念品が授与された。

これは、豊島区立男女平等推進センターが、地域社会におけるワーク・ライフ・バランス推進を目的に、区民を対象に幅広く募集を行っていたもの。日本の男性の家事・育児に費やす時間は世界的にみても最低の水準といわれる状況にある。子育てを積極的に行う男性「イクメン」や家事に積極的な男性「カジダン」を作品の題材として取り上げることで、家庭生活を楽しみながら育児や家事をこなす男性を応援するのが狙い。本年 8 月から 10 月にかけて募集を行った。

応募作品は 20 点となり、10 月 26 日（水）に開催された「ワーク・ライフ・バランスフォーラム」において参加者の投票により選考をした。入賞作品として最優秀賞 1 点、区長賞 1 展、優秀賞 2 点、佳作 2 点の 6 作品が選ばれ、本日の表彰式には受賞者 5 名が出席した。入賞作品は、今後、同センターが発行する情報誌に掲載するなど区が行なうワーク・ライフ・バランス啓発活動に活用していく予定。記念品には、家族で楽しめる公演チケットなどが贈られた。

日 時	平成 23 年 11 月 30 日（水曜日）午前 11 時～11 時 30 分	
場 所	豊島区役所本庁舎 3 階区長応接室（東池袋 1-18-1）	
当日の様子 参加者の声 など	各賞授与後の懇談の中で、受賞者らは「子どもが二人となり、少しでも家事、育児の手伝いができればと思い始めた。自分の姿をみている下の男の子は、何も言っていないのに最近、手伝いをしてくれるようになった。（カジダンは）教育的にもいいこと」、「子どもが愚図ったとき、夫が『トトロの歌』を歌って機嫌が良くなった時の写真。いつも楽しく子どもに接してくれている。」など、それぞれの子育てや作品のエピソードを披露していた。最優秀賞の土屋康弘（37 歳）さんは、「育児は手際よくやらなくてはいけないなど、仕事にも通じるものがある。最初はつらいけれど、慣れてくれば楽しめます」とイクメン・カジダンへの取り組みについて感想を述べていた。	
入賞作品	【最優秀賞】 「おいしくなあれ」土屋康弘さん 【区長賞】 「朝のお散歩 るんるんるんっ♪」鈴木梓さん 【優秀賞】 「カジダン、カジダン」r 育成中！」古屋友和さん 「今朝も登園、一番乗り！」中村毅士さん 【佳作】 「ごはんを待つまでの間…」鹿取克好さん 「いってきます」金沢沢守さん	
写 真 *写真はメ ールで送り ます	最優秀賞「おいしくなあれ」 	区長賞「朝のお散歩 るんるんるんっ♪」 
	高野区長と受賞者の方々 	
問 合 せ	男女平等推進センター	

平成 23 年 8 月 10 日

育児 & 家事男子の写真を応募しませんか？

～「イクメン」「カジダン」の写真作品 募集～

豊島区では、現在今注目の「イクメン」（育児＋メンズ）「カジダン」（家事＋ダン（男性））の日常の姿や様子を撮影した写真作品を募集している。応募締め切りは9月5日（月曜日）必着。

子育てを積極的に行う男性「イクメン」や家事に積極的な男性「カジダン」を作品の題材として取り上げることで、家庭生活を楽しみながら育児や家事をこなす男性を応援するのが狙い。

寄せられた応募作品は、「豊島区ワーク・ライフ・バランスフォーラム」と同時開催の写真展にて公開。フォーラム参加者などによる投票で、受賞作品を選定し、表彰する（計5作品程度）。得票数の多かった作品には、記念品を贈呈する。

【主催】豊島区 【協賛】としま未来文化財団

<応募規定>

募集テーマ

「イクメン」「カジダン」を撮影した作品

応募資格

豊島区在住・在学・在勤の方

応募点数

一人、2点まで。カラー・モノクロ不問。（未発表かつ応募者本人撮影の作品に限る。）

応募方法

2L サイズ（127×178mm）にプリントした作品と応募用紙（チラシの裏面かホームページからダウンロード）に、①申込確認事項②応募者氏名・住所・連絡先③表示氏名・作品タイトル（15字以内）・エピソードやコメント（100字程度）を記入し、郵送もしくは持参。

提出先

豊島区立男女平等推進センター（エポック 10）
〒171-0021 豊島区西池袋 2-37-4（勤労福祉会館 3 階）

表彰作品選考方法

10月26日（水）に開催するワーク・ライフ・バランスフォーラムの参加者の投票及び写真展協賛団体等により選考。受賞作品は、データまたはフィルムを後日提出。

注意事項

- ①応募に関わる費用は自己負担
- ②肖像権を侵害しないように、写真に写っている方に公表の承諾を得ること
- ③応募作品は返却不可

問い合わせ： 男女平等推進センター 所長